



地域医療連携室だより

おおぞら



明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。地域医療連携室だより「おおぞら」第7号となります。

新年のご挨拶 ～ 脳神経内科 副院長 内海 裕也 ～



新年あけましておめでとうございます。

平素より忙しい診療の中、多くの患者様を御紹介頂き誠にありがとうございます。本年も地域の先生方と連携を取りながら地域医療の充実を目指して行きたいと考えております。

さて、本国際医療福祉大学において2017年4月より医学部設置を認められ、第一期生として140名が入学致しました。今年4月より臨床実習を開始することになり国際医療福祉大学病院・塩谷病院にて常時60名の実習研修が行われ、うち12名が本院での研修に参加致します。若い医学部生が常時、病院内で臨床参加型臨床実習として、スチューデントドクターとの呼称で本院の臨床の一部に参加致します。彼らがより良い実習体験を通していずれ、そのうちの一人でも栃木県北の医療を担っていく存在となることを期待して臨床実習を行っていく覚悟をしております。また、成田病院が本年4月より開院となります。それに伴う医師の移動により、先生方にはご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、今後も御支援・御鞭撻の程を宜しくお願ひ致します。

地域医療連携懇談会を開催しました



2019年12月3日(火)矢板イースタンホテルにて第19回地域医療連携懇談会を開催しました。当日は32の医療機関から47名の参加を頂き当院からは19名の医師が参加しました。

特別講演『肺癌における最近の動向』

～ 呼吸器外科 小中 千守 医師 ～

『国民2人に1人が癌になり3人に1人は癌で死亡する時代である。

2017年の死亡数が多い部位は男性:1位「肺」2位「胃」3位「大腸」、女性:1位「大腸」2位「肺」3位「膵臓」となっており肺癌の死亡率が高い』。講演内容は・肺癌の特徴・肺癌の確定診断法・肺癌集団検診の手引き・肺癌の予防と喫煙・肺癌の治療法(手術方法、放射線療法、薬物療法)等の内容でした。



岡医院
岡 一雄先生



国際医療福祉大学塩谷病院
病院長 須田 康文先生



尾形医院
尾形 新一郎先生



国際医療福祉大学病院
病院長 大和田 倫孝先生

* 今回も色々な方とお話できました。次回も参加をお待ちしております。





新年おめでとうございます。

地域の皆様には日頃から大変お世話になっております。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、ここからは警察医についてお話しさせていただきます。主な仕事は変死体の検死と留置人の健康管理です。小生、警察医を拝命して30数年経ちますが死体検案数は現在500体以上となり、その内の約75%は病死で残りは自殺、溺死、焼死、交通事故死、不慮の事故死、他殺などでした。自殺者は計86体で、

手段別では縊死61体(男52体、女9体)と全自殺者の70%を占め、年齢は17才~102才と少年から超高齢者まで幅広く検案させていただきました。その他、自殺の手段としてはガソリンや灯油を頭から被った焼死13体(男女ほぼ同数)、密封された場所での練炭など使用した一酸化炭素中毒死5体、薬物中毒死、窒息死などでした。自殺を選択した理由は様々で心の内面まで計り知ることは出来ませんが、毎回自殺の検死には心を痛めています。自らの命を絶った現場に臨場する時、何故?何故?とやるせない思いで私情を抑えるのに容易ではありません。検死後も一週間は気持ちが沈んだまま状態が続きます。その他の変死体では、入浴中浴槽内での死亡は過去10年間で8体(男3体、女5体)と比較的女性に多く、年齢は60才~89才と全例高齢者でした。これから2月、3月とまだまだ寒い日が続きますので入浴には十分注意するようにご指導いただければ幸いです。



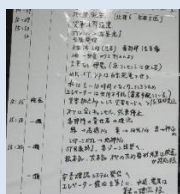
元東京都監察医務院長の上野正彦先生の著書「死体は語る」、「死体は生きている」が一時期ベストセラーになりましたが、著書の中で「検死とは死者との対話である。丹念に検死することにより死者自らが真実を語り出す。死因を究明することが死者への何よりの供養となる」と述べられています。この言葉を念頭に置いていつも検死活動が続けてきました。体力的にいつまで続くかは定かではありませんがもう少し頑張ってみようと思っております。

今年も皆様にはご迷惑をお掛けすることになると思いますがどうぞよろしくお願い致します。

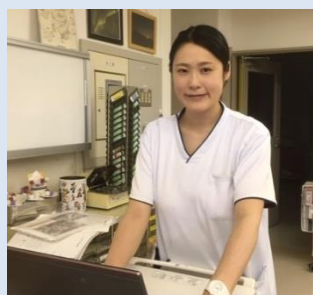


2019年12月5日(木)災害初動訓練を行いました。

『栃木県北部を震源とする震度6の地震が発生し矢板も震度5強であった。病院も大きな揺れに見舞われた。市内の被害は不明』の想定で実施されました。



認知症看護認定看護師 斎藤 友希



認知症の方は、体調不良や緊急入院、手術に伴う身体や環境の急激な変化により、容易に混乱を生じやすく対応が困難な場合が多々あります。そのため、認知症看護認定看護師は認知症の方一人一人の思いに寄り添い、統一した対応やケアを行うことで「居心地のよい環境」を作ることを目指しています。認知症の方の混乱を最小限とし、安全に安心して療養生活を送ることで、より早く「その人らしい生活」へ復帰ができるよう支援していきたいと思っております。

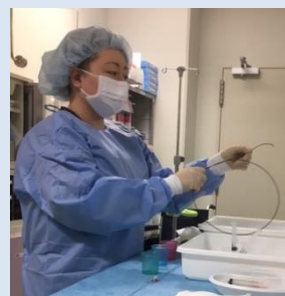


こんにちは。皆様初めまして、特定行為看護師(診療看護師・NP:Nurse Practitioner)の大久保奈美と申します。

私は、国際医療福祉大学塩谷病院に勤務し2年が経とうとしています。まだ、栃木県内にはNPが8名程度しかいないため馴染みはありませんが、NPとは2010年に厚生労働省が今後の医療ニーズに鑑み制定し、医師の包括的指示のもと医療行為や処方を含む行為を行う職種です。当院に就職を希望した理由としては、大学院(NPの資格を習得中)での実習を当院で実施した際に、多職種のスタッフ皆様が優しく、とても温かかったことと、地域と非常に密着した病院であることに魅力を感じ、是非とも当院のスタッフとともに歩み、地域の患者様に看護や医療を提供させて頂きたいと思ったことでした。現在は、循環器内科に属し病棟患者様や救急外来に来院した患者様をメインに医師や看護師と共に対応させて頂いています。昨年からは、脳神経外科も学ばせて頂いています。循環器内科の患者様に関しましては、昨年より在宅訪問も医療保険でさせて頂いています。主な内容としては、退院後も必要な医療行為を施行したり、継続診療が必要でも頻繁に病院に来院できない場合にフィジカルアセスメントから病態を把握し、採血や血ガス採取、エコーなどを行っております。そうすることで、在宅で少しでも元気に安心して暮らして頂けるような環境を作れればと思っています。そして、また入院が必要な状況になってしまった時には、病棟で医師や看護師と共にみさせて頂き、退院が可能となったら入院中の治療経過を踏まえ、また在宅でみさせて頂くというサイクルで患者様と共に歩ませて頂いています。NPは病院や地域によって働き方は様々です。言い方を変えれば、型に嵌らず如何様にも対応できるようになればと思っています。

今後は、地域の先生方とも連携・協働させて頂ければと思っています。そして、患者様のために新しい医療や看護の形を追求していければと思っています。是非とも宜しくお願い致します。

*** 心臓カテーテル検査で医師とともに処置をおこなっている様子です ***



*** 地域医療連携室スタッフ一同 ***



あけましておめでとうございます。
今年も何事にも迅速に対応を行っていきたく思います！
よろしくお願い致します。

地域医療連携室 月曜日～土曜日 8:30～17:30

TEL 0287-44-2722 FAX 0287-43-4788